— AUS（アルテミス・ユーザ・サポート）便り 2018/05/21号 —
https://www.artemis-jp.com

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●IBMが社内でのUSBメモリの使用を全面的に禁止

https://gigazine.net/news/20180511-ibm-ban-usb-stick/
https://security.srad.jp/story/18/05/12/1954247/

このニュースをザックリ言うと・・・

- 5月10日（現地時間）、IBMが社内でUSBメモリ、SDカード、フラッシュドライブを含むポータブル・ストレージデバイスによるデータ転送を全面的に禁止する計画であることがIT系メディア「The Register」等で報じられました。

- IBMによれば、USBメモリ等を置き忘れたり無くしたりすることの経済的損失・風評被害を最小化することが目的で、データの共有にはオンラインストレージ等の使用を推奨するとしています。

- 世界のいくつかの支社で既に実施されており、5月末までには世界中のIBMで適用する予定とのことです。

AUS便りからの所感等

- 今回の決定は5月25日から施行されるEUの新データ保護規則「GDPR」への対応等が理由とみられ、セキュリティ専門家の間でも「ポータブル・ストレージデバイスは企業からデータを抜き取ることを容易にし、悪意のあるソフトウェアを導く」と賛成する意見や、一方で「ノートPCやNASデバイス、FTPサーバもUSBメモリと同様に紛失される」という理由で否定する意見も出ています。

- IBMは自前のクラウドサービスを提供している他、法人向けオンラインストレージサービス「box」と契約しており、クラウドでのデータ共有への完全移行は決して絵空事ではないと思われますが、それでも一部では業務に支障が出る可能性は考慮し、例外を設けることも検討しているようです。

- USBメモリやSDカードについてはその小ささ故に紛失するリスクが高く、またマルウェアに感染したUSBデバイスはPCに接続しただけで感染が拡大する可能性もあり、メリットとデメリットを勘案した結果でもあると思われます。

- こういったポータブルデバイスを使うにしろ、オンラインストレージを使うにしろ、それぞれにメリットとデメリットがありますので、利用にあたっては十分検討を行い、かついずれにしろ可能な限りアンチウイルスやUTM・IPS等による防御でマルウェア感染・データ流出を食い止める体制を整えておくことが重要です。

GIGAZINE

2018年05月11日 15時00分00秒
IBMが社内でのUSBメモリの使用を全面的に禁止

by Ellen Macdonald

IBMが社内でUSBメモリ、SD
面的に禁止したと、IT系メデ

IBM bans all removable s
https://www.theregister.

Workers banned from us
http://www.bbc.com/ne

The Registerによると、IBMの情報セキュリティ部門のグローバル・チーフであるShamla Naidoo氏は、IBMが「ポータブル・ストレージデバイスにデータを転送することを禁止した」と語ったとのこと。このポータブル・ストレージデバイスにはUSBメモリ、SDカード、フラッシュドライブなどが含まれます。上記のルールは世界中にいくつかのIBM支社で既に行われているものですが、5月末までには世界中のIBMで適用されることになる予定です。

ポータブル・ストレージデバイスの禁止は、USBメモリなどを置き忘れたり無くしたりすることの経済的損失・風評被害を最小化することが目的。データの共有にはインターネット・ネットワークを使用することが推奨されています。

Naidoo氏はこの新ルールが「いくらか混乱を巻き起こすかもしれない」と認めていますが、セキュリティの専門家であるKevin Beaumont氏は「IBMによって行われたこの動きは勇敢なものです。ポータブル・ストレージデバイスは企業からデータを抜き取ることを容易にし、悪意のあるソフトウェアを導きます」と肯定的な意見を示しました。

一方で、セキュリティ会社「1E」のCEOであるSumir Karayi氏はIBMの対応について「過剰反応」だとコメント。「USBメモリの使用を止めることではデータの盗難を防ぐことはできません。ノートPCやNASデバイス、FTPサーバもUSBメモリと同様に紛失されます」とKarayi氏は語りました。

スラド

IBM、リムーバブルストレージデバイスへのデータ転送を全従業員に禁止する計画

ストーリー by headless 2018年05月13日 9時49分 予防 部門より

IBMが全世界の従業員に対し、リムーバブルストレージへのデータ転送を禁じるそうだ(The Registerの記事、 Mashableの記事)。

The Registerが入手した社内向けアドバイザリーによると、一部の部署ではUSBメモリーやSDカードなど、すべての種類のリムーバブルストレージデバイスへのデータ転送を以前から禁止していたという。このポリシーを今後数週間かけ、全世界に拡大する計画とのこと。リムーバブルストレージデバイスの紛失や悪用などによる経済的・社会的ダメージを防ぐことを目的としているが、業務内容によっては支障が出る可能性も認識しているようだ。

その後、パッチを格納したUSBメモリーやブータブルUSBメモリーを現場に持ち込んで作業することも難しくなってしまうといった反対意見を受け、一部で例外を設けることも検討しているとのことだ。

40 コメント

ストレージ セキュリティ 情報漏洩

●大学病院Webサイト、不正アクセスにより改ざん

https://cybersecurity-jp.com/news/24424

このニュースをザックリ言うと・・・

- 5月9日（日本時間）、神奈川県の聖マリアンナ医科大学東横病院より、同院のWebサイトが不正アクセスを受け改ざんされていたと発表されました。

- 発表によれば、サイトの改ざんにより、閲覧者が意図せず外部のサイトへ誘導される状態になっていたとのことです。

- 同7日午後にはサーバを停止した後、サーバの再構築を行って復旧しており、電子カルテ情報はホームページと分離して管理されていたため、一切流出していないとのことです。

AUS便りからの所感等

- 先日ネットワークカメラが乗っ取られ画像表示設定が改ざんされる事例を取り上げました（「AUS便り 2018/05/07号」参照）が、このようなWebサイトの改ざんも依然国内外で発生しています。

- 一方で、Webサイトの公開を必ずしも社内ネットワーク上のサーバで行うのではなくレンタルサーバ等で行うケースも増えてきており、今回のWebサイト改ざんのように機密情報流出につながらなかったとされるのも、たまたまその傾向が作用したという見方もできるでしょう。

- くれぐれも外部公開系のサーバが踏み台にされて内部ネットワーク向けサーバにアクセスされてしまうという形の不正アクセスが発生しないよう、それぞれのネットワークはUTMを用いる等して分離し、かついずれのネットワークについてもあらゆる方向からの不正アクセス・侵入を受けることのないよう、それぞれ必要な対策を確実に講じるようにしてください。

●「Acrobat Reader DC」「Acrobat DC」のセキュリティアップデートがリリース

https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/1121810.html

このニュースをザックリ言うと・・・

- 5月14日（現地時間）、Adobe社より「Adobe Acrobat Reader DC」「Adobe Acrobat DC」v2018.011.20040をはじめとするAcrobat Reader等の最新バージョンが公開されました。

- このバージョンでは、不正なPDFファイルを開くことにより、PCを乗っ取られる等の可能性がある重要な脆弱性が計47件修正されています。

- JPCERT/CCおよびIPAからも脆弱性に関する警告が出ており、最新バージョンへのアップデートが呼び掛けられています。

AUS便りからの所感等

- Adobe社のAcrobat Readerは多くのPCにインストールされている一方、不正なPDFによる攻撃が可能な脆弱性が頻繁に報告されることから攻撃者に狙われやすく、いわゆるゼロデイ攻撃の発生も珍しくありません。

- Acrobat Readerは通常自動更新されるようになっていますが、もしされていなければ「ヘルプ」「アップデートの有無をチェック」を選択することにより最新バージョンへのアップデートを行うようにしましょう。

- 近年はChrome・FirefoxおよびEdgeといったWebブラウザで（Acrobat Readerのプラグインがなくても）PDFを開くことも可能となっており、Acrobat Readerをインストールしないという方向性も検討に値しますが、ただしその場合でもブラウザは最新バージョンに保ち、不正なPDFファイルはアンチウイルス・UTM等によるスキャン・遮断等も行うことは決して怠ってはいけません。